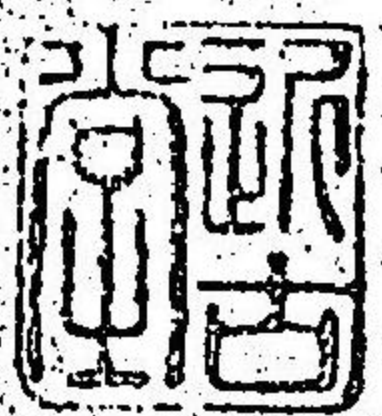
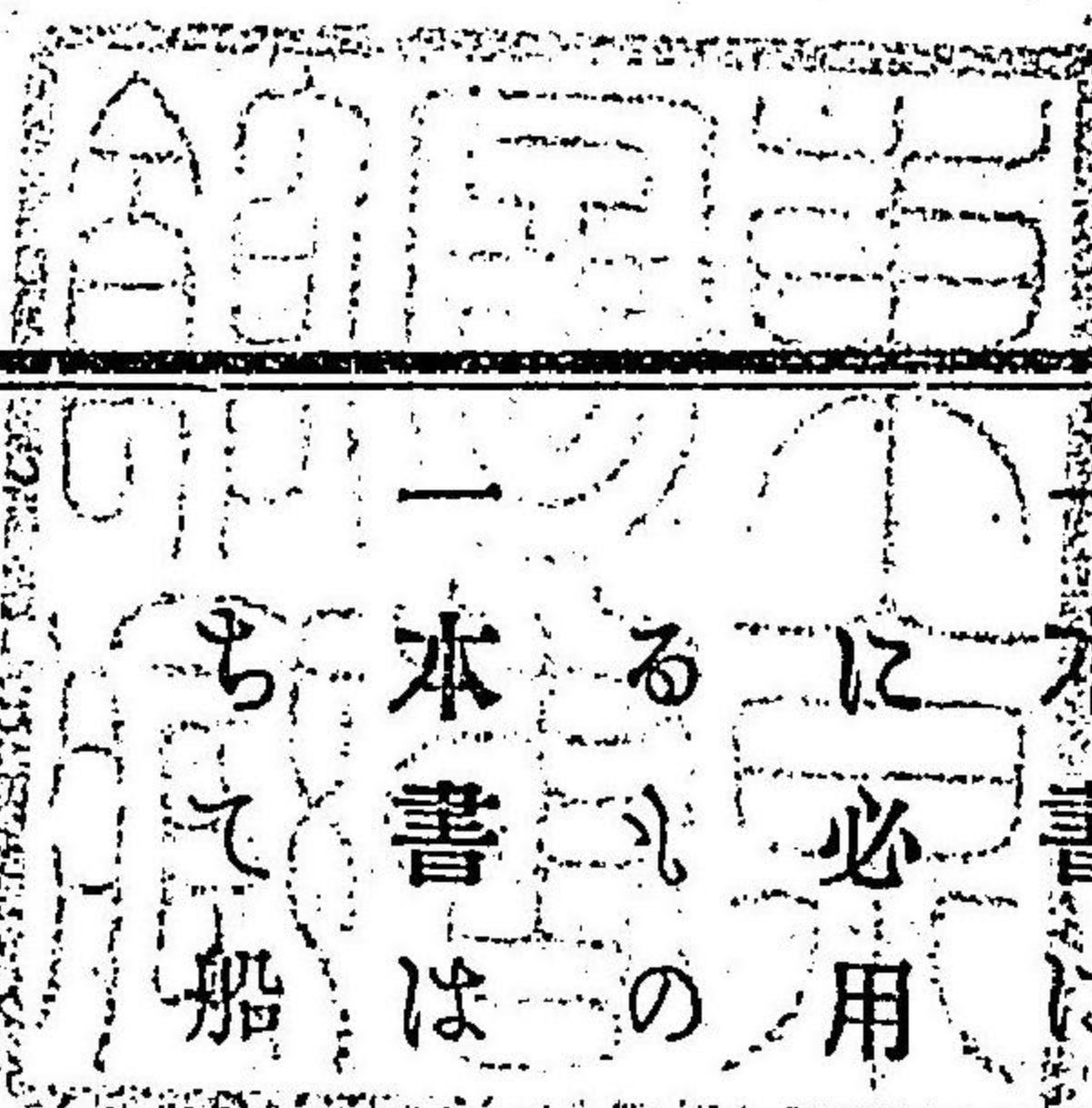


村為弘編纂

# 日本海軍義携

版權所有 近古堂發行





凡例

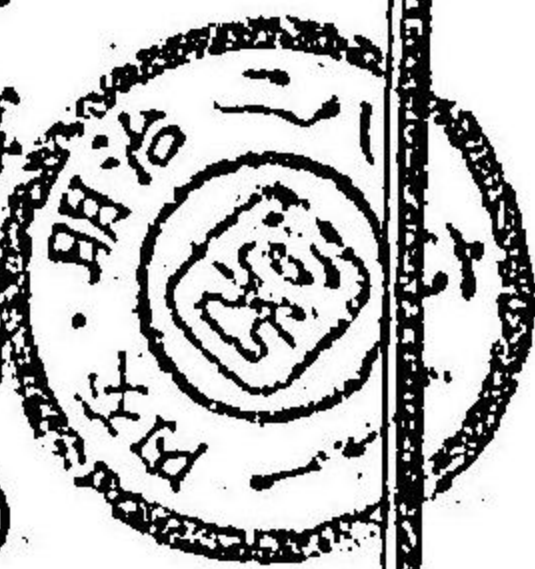
一本書は海員及び海運に關する當事者の爲めに  
に必用なる船舶一切の現行諸規則を蒐集し  
るものとす

一本書は索觀に便ならしめんが爲め之れを分  
ちて船籍、検査、海員、海難、航海の五章とす

明治廿八年五月

編者識

○凡例



海員必携目次

第一章 船籍

船籍規則.....一

西洋形商船規則.....九

船籍規則施行期限.....一五

失踪船取締規則.....一五

第二章 檢査

西洋形船舶檢査規則.....一七

全細則.....二一

全手續.....四一

船燈信号器及救命具取締規則.....四一

船燈信號器及救命具試驗檢定及監査手續.....四一

第三章 海員

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則……………四二

西洋形船水先免狀規則……………四八

西洋形船海員雇人雇止規則……………四八

船長運轉手機關手試驗規程……………四九

第四章 海難

內國船難破及漂流物取扱規則……………四九

海難取調手續……………六三

第五章 航海

河上衝突豫防法……………六七

航路標識條例……………九六

目次畢

海員必携

第一章

船籍

勅令第二百十九號 明治廿三年十月八日

朕船籍規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

船籍規則

第一條 船籍ハ西洋形日本形ヲ問ハス總テ船籍港ヲ定メ其地市町村役

場若クハ浦役場ノ船籍ニ編入スヘシ

第二條 船籍ニ編入セントスル片ハ國內ニ於テハ地方官廳國外ニ於テ

ハ領事館ニ願出テ其積量ノ測度ヲ受クヘシ

第三條 入籍シタル船舶ニシテ登簿噸數十五噸以上ノ西洋形船百五十

石以上ノ日本形船ナル片ハ遞信省ニ船籍証書ノ交附ヲ願出ツ

第一章 船籍



第四條

船籍證書ニハ左ニ記載シタル條件ヲ記シ且ツ年月日ヲ記スヘシ

但シ日本形船ニ在テハ第一項ノ信号符字及第八項乃至第十  
七項ヲ除キ其石數ヲ記シ西洋形帆船ニ在テハ第十三項乃至

第十七項ヲ除ク

第一項 船名ノ番号信号符字

第二項 船名ノ原名

第三項 船籍港名、管轄廳名

第四項 甲板ノ層數、樁數、索具ノ裝置、船体ノ材料、船骨ノ材料、船首ノ形狀、船尾ノ形狀

第五項 造船工長ノ氏名、製造年月日、製造地名

第六項 船主ノ住所氏名、(會社其他ノ法人若クハ二人以上ノ

所有ニ係ルル片ハ會社名若クハ管理人ノ氏名)

第七項 船船ノ長、幅及深

第八項 量噸甲板下部ノ噸數

第九項 量噸甲板上諸部ノ噸數

内譯

甲板間ノ噸數

船尾室ノ噸數

圓室ノ噸數

其他諸室ノ噸數

第十項 總噸數

第十一项 登簿噸數

第十二項 乘組人常用室ノ噸數

第十三項 機關室ノ噸數

第十四項 機關ノ種類及數

第十五項 汽缸ノ種類及數

第十六項 推進器ノ種類

第十七項 公稱馬力

第五條

新造若クハ改造シタル船舶又ハ外國人ヨリ取得シタル船舶ノ假證書ハ前條第一項ヲ除キ船舶ノ種類ニ從ヒ其他ノ諸件ヲ記スヘシ

第六條

同一ノ船舶ニシテ再度以上假證書ノ交付ヲ受ケタル場合ト雖モ其効力ハ初度ノ證書ニ記載シタル年月日ヨリ起算シ商法第八百三十條第二項ノ期限ヲ超過スルコトヲ得ス

參考 商法第八百三十條

船舶港外ニ於テ日本人民會社其他ノ法人カ船舶ヲ取得シタルルルハ其船舶港ニ到着スルマテハ外國ニ在テハ其取得ノ地若シハ其近傍ニ駐在スル日本領事内國ニ在テハ地方官廳ヨリ假證書ヲ受ケ之ヲ船舶證書及船舶登記證書ニ代フルコトヲ得此場合ニ於テハ領事又ハ地方官廳ハ其證書ノ謄本ヲ管海官廳及船舶港ヲ管轄スル裁判所ニ遅延ナク送付スルコトヲ要ス

前項ノ證書ノ効力ハ領事ヨリ交付シタルモノ一ケ年地方官廳ヨリ交付シタルモノハ半年ヲ以テ限トス

船舶證書ノ交付ヲ願出ツルルルハ手数料トシテ本證書ハ壹圓假證書ハ五拾錢ヲ納ムヘシ

第三條

船舶證書ノ交付ヲ願出ツルルルハ手数料トシテ本證書ハ壹圓假證書ハ五拾錢ヲ納ムヘシ

第八條 船籍證書ハ常ニ船内ニ保持シテ船長之ヲ監守シ稅關官吏司檢官警察官領事其他正當職權アル者ニ於テ檢閲ヲ要スルハ何時ニテモ之ヲ開示スヘシ

第九條 船籍證書ヲ受有スル西洋形船ハ左ノ事項ヲ銘記シ且ツ其事項ニ變更ヲ生シタルハ其都度之ヲ改記スヘシ

第一項 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍港名ヲ方三寸五分以上ノ國字並ニ羅馬字ヲ以テ記スヘシ

第二項 中央ノ船梁ニ船籍證書ノ番号及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ該番号噸數ヲ彫刻シタル板ヲ固釘スヘシ

第三項 船首材及船尾材ノ外部兩側面ハ水脚ヲ示ス爲メ一尺毎ニ方五寸ノ羅馬及ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記スヘシ

第十條 船籍證書ヲ受有スル日本形船ハ船尾ニ船名、船梁ニ船籍證書ノ

番号及石敷ヲ記スヘシ

第十一條 船舶所有者船籍港ニ居住セサルハ本船ニ關スル事務ヲ代辦セシムル爲メ其船籍港ニ代理人ヲ置キ之ヲ市町村役場若クハ浦役場ニ届出ツヘシ

第十二條 船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルハ船籍面ノ訂正ヲ請ヒ且ツ船籍證書ノ書換ヲ申出ツヘシ

第十三條 船籍港ヲ移轉シタルハ原籍ヲ削除シ移轉地ノ船籍ニ編入シ且ツ船籍證書ノ書換ヲ申出ツヘシ

第十四條 船舶ノ所有權ヲ他人ニ移轉シタルハ其旨ヲ市町村役場若クハ浦役場ニ申出且ツ船籍證書ヲ返納スヘシ

第十五條 船舶ノ破壊、喪失、失踪、解撤ニ歸シタルハ若クハ日本船舶タルノ資格ヲ失ヒタルハ本船ノ除籍ヲ請ヒ且ツ船籍證書ヲ返

納スヘシ

第十六條 本條例第八條乃至第十五條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十七條 明治十二年五月第十九号布告ニ依リ附與セシ西洋形船登簿船免狀ハ此規則施行ノ日ヨリ船籍證書ト見倣シ本證書ト同一ノ効力ヲ有ス

第十八條 明治三年正月布告商船規則全十二年二月第五号布告全年五月第十九号布告全十四年二月第十二号布告其他從前ノ成規中此規則ニ牴觸スルモノハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス  
第十九條 此規則ハ明治廿四年一月一日ヨリ施行ス

逓信省令第二十号明治廿三年十一月八日

船籍規則施行細則(略之)

參考

明治三年正月二十七日布告

西洋形商船規則別冊之通御定ニ相成候條此段相達候事

西洋形商船規則

西洋形船買入ノ儀ニ付先般相觸置候趣モ有之軍艦ヲ除クノ外在來日本製造ノ船ハ勿論西洋形船ニ至ル迄總テ民部省中通商局ノ管轄ニ被仰付候條得其意右西洋形船所持ノモノ或ハ新規買求候モノハ民部省外務省連印ノ免許狀可申請允別紙規則書一通開港場運上所ヨリ相渡令所持候條其旨可相心



得候一休日本製造ノ船ハ度々難破ノ患モ有之人命荷物等ノ  
損傷不少詰リ皇國ノ御損失ト相成候ニ付追テハ不殘西洋形  
ノ大船ニ仕替度御旨趣ニ付當今西洋形ノ船所持ノ者ハ厚御  
引立被遣候條其旨可相心得候乍去密商拔荷等不心得ノ儀相  
備候者ハ嚴重取締不致候テハ不相濟ニ付別紙御規則御取極  
相成候儀ニ付津々浦々ニ於テ此旨屹度可相守候事  
右之通御沙汰候事

免狀案(十二年第十九号布告ヲ以テ改正ス後ニ出ス)

規則(別紙)

西洋形船買入度者ハ其旨開港場運上所へ可願出其上船ノ善  
惡新古檢閲ノ上免許差違可申事  
一御國旗ノ事

右ハ決テ取外シ候事不相成附屬ノ船ニ至ルマテ必ス可  
揚置事

一毎朝西洋時規第八字ニ引揚ケ夕方ハ日沒マテテ限引卸ス  
ヘキ事

但右御國旗引揚無之節ハ海賊船ノ取扱請候テモ申譯ナキ  
一萬國普通ノ公法タル事

一御國旗ノ寸法別紙ノ通ニ候事  
但大旗ハ祝日ニ引揚平日ハ小旗引揚風雨晦冥ノ節ハ小旗

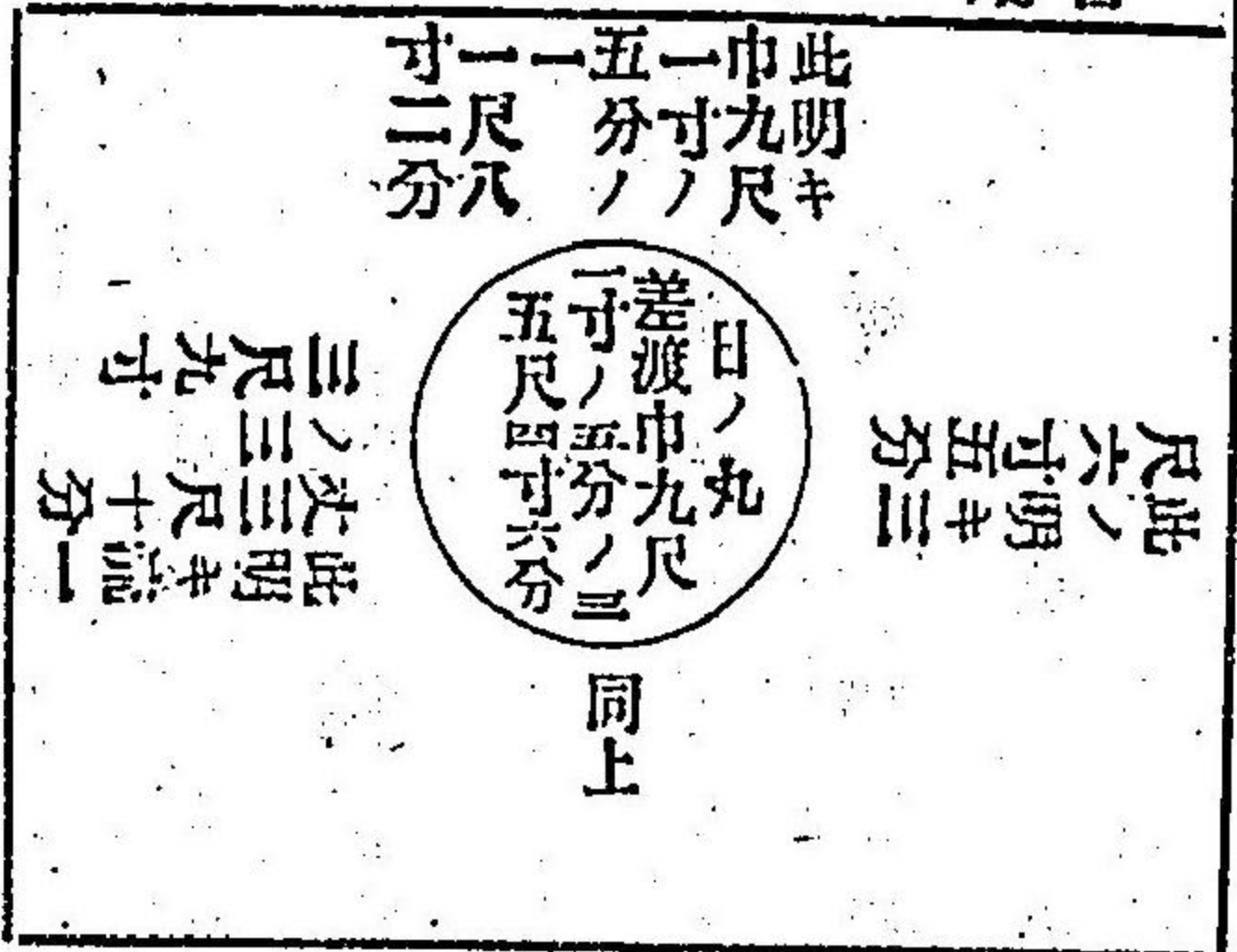
マテ小御置不苦候事  
一御軍艦へ出合候節ハ我旗章ヲ三度昇降致禮義ヲナスヘキ

事  
一船ノ込合タル節並ニ風雨浪高ノ折ハ別テ心ヲ用ヒ互ニ突

當ラサル様可致右ハ日本船タリ同様ナレ外國船ハ別  
 テ此規則嚴重ナレハ精密ニ用心スヘシ  
 一船中乗組ノ者病死致候節ハ水葬不相成陸地へ相當ノ葬禮  
 可取行事

一海賊防禦其外ノ用意ノ爲メ相當ノ銃器備置候義ハ苦シカ  
 ラス尤モ兼テ挺銃等ノ免許狀請取置ヘキ事  
 一免許ヲ受候上外國人ヲ雇ヒ船中使役ノ儀不苦事  
 但不開港ノ地ニテ無據上陸爲致候節ハ護衛ノ者急度附添  
 其所ノ役所へ相届官許ノ證據差出可申事  
 右之通相定候條嚴重ニ可相守事  
 (本則以後ノ諸法令ニ規定アル條項ハ總テ之ヲ省略ス)  
 (別紙)

日祝可分大旗之圖



平常可用分

中旗 流一丈 一尺七分  
 日ノ丸差渡四尺二寸  
 同先ノ明キ三尺  
 同乳ノ方明キ二尺八寸

風雨ノ節可用分

小旗 流六尺 一尺一寸  
 日丸差渡二尺五寸一分  
 同先ノ明キ一尺八寸  
 同乳ノ方明キ一尺六寸八分

明治十二年二月十日第五号布告

自今西洋形商船ハ沿海管應ノ所轄ニ被附候條來ル七月廿一日マテ  
 二本船ノ定繫港ヲ定メ其地ノ船籍ニ編入致スヘシ

○第一章 船籍

但定繁港ハ船主又ハ本船ノ公務ヲ代理スル者所在ノ地ニ於テ定ムヘシ

第十九号布告明治十二年五月十五日

明治七年八月第八十八号布告航海公證規則ヲ廢シ明治三年正月二十七日布告西洋形商船免狀別紙ノ通改正候條此旨布告候事

別紙(畧之)

第十二号布告明治十四年二月十七日

明治十二年五月第十九号西洋形商船免狀ハ自今蒸漁船ハ拾噸風帆船ハ廿噸以下及湖川港灣ヲ限リ運轉スルモノハ其船免狀ヲ受有スルニ及ハス此旨布告候事

勅令第十七号 明治二十五年十一月廿日

明治廿三年勅令第二百十九号船籍規則ハ商法中本則ニ關聯スル條項ノ施行延期中之ヲ實施セス

遞信省令第六號 明治廿六年三月十六日

失踪船取扱規則

第一條 船舶發航ノ后到達港ニ致達セス其所在分明ナラサルハ船主

ハ左記ノ事項ヲ記シ市町村長ノ加印ヲ受ケ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ届出ツヘシ

- 一 船舶ノ名稱、種類、積量、馬力(汽船ナ)及船主ノ氏名
- 二 載貨ノ種類、量目及其見積代價

三 船舶乗組員及旅客ノ族籍身分氏名年齢

四 發港地名及其日時

第二條

前條ノ届出ハ之ヲ官報ニ掲載ス

官報掲載ノ日附ヨリ起算シ内國航海船ニ在テハ六ヶ月外國航海船ニ在テハ一年ヲ經過スルモ船舶ノ所在分明ナラサルハ

ハ踪跡ヲ失ヒタルモノト看做シ市町村長ニ於テ其船籍ヲ削除スルト同時ニ其旨ヲ記シ地方官廳ヲ經由シテ遞信省ニ報告ス

ヘシ

船籍ヲ削除セラレタル後其船舶ノ所在ヲ發見スルハ船主ハ

其旨ヲ記シ市町村長ニ届出ツヘシ市町村長ハ其船籍ヲ復活スルト同時ニ其旨ヲ記シ地方官廳ヲ經由シ遞信省ニ報告スヘシ

第三條

船籍ヲ削除セラレタル後其船舶ノ所在ヲ發見スルハ船主ハ其旨ヲ記シ市町村長ニ届出ツヘシ市町村長ハ其船籍ヲ復活スルト同時ニ其旨ヲ記シ地方官廳ヲ經由シ遞信省ニ報告スヘシ

第二章

検査

第三拾號布告 明治十七年十二月廿二日

西洋形船舶検査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

西洋形船舶検査規則

第一條

西洋形船舶ハ海軍艦船ニ此規則ニ遵ヒ検査ヲ受クヘシ

但登録船舶免狀ヲ受有スルニ及ハサル風帆船ハ此限ニ非ス

第二條

船舶検査所設置ノ場所ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條

検査所々在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其最寄検査所ニ願出ツヘシ

出ツヘシ

第四條

検査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其船籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ツヘシ

第二章 検査

第五條 登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ノ検査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ツヘシ

第六條 検査官吏ハ農商務大臣之ヲ命ス

但第五條ノ汽船ニ係ル検査官吏ハ府縣知事之ヲ命ス

第七條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ト認ムルハ農商務

省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル検査證書ヲ交付ス

但地方廳ノ検査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

一番號

一船主氏名

一登録噸數

一航行シ得ヘキ場所ノ定限

一證書有効期限

汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ

- 一 公稱馬力
- 一 汽機ノ種類
- 一 最大汽壓
- 一 旅客定員

第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルハ其修理ヲ命シ或ハ出帆ヲ差止ムヘシ

第九條 検査證書ノ効力ハ其船ノ現狀ニ依リ六ヶ月十二ヶ月ニ區別ス

第十條 検査證書ハ船内最見易キ所ニ掲ケ置クヘシ

第十一條 検査證書ヲ亡失若クハ毀損シタルハ其理由ヲ詳記シ再渡

ヲ願出ツヘシ

第十二條 船名、船主及定繫場ヲ變更シタルハ農商務省又ハ地方廳ニ

届出ツヘシ

第十三條 船体若クハ汽機汽鐘其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタル

氏ハ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十四條

船舶航行ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルモ又ハ除籍トナリタル

第十五條

片ハ直ニ検査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十六條

検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル

第十七條

場合ニ於テハ驗檢スルコトアルヘシ

第十八條

船舶ノ検査ヲ受スシテ航行シ又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ

第十九條

又ハ検査證書ニ記載セル最大風壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限

第二十條

ヲ越エテ航行シ又ハ検査官吏ノ命ニ違背シ修理セスシテ出

第二十一條

帆シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出帆シタル者ハ三十圓以上

第二十二條

三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條

検査證書ニ記載セル船舶其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅

第二十四條

客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ十圓

以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條

検査官吏ノ検査ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上

第二十六條

二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條

前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アル者ハ其罪ヲ論セス

第二十八條

第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上一圓九

第二十九條

拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條

検査細則及施行ノ手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

遞信省令第十八号 明治廿六年十月廿一日

明治十九年四月當省令第四号 西洋形船舶検査細則左ノ通改正シ 明治廿

七年一月一日ヨリ施行ス

西洋形船舶検査細則

第二章 検査

第一條

本則ハ西洋形船舶検査規則ニ據リ検査ヲ受クヘキ船舶ニ適用ス

第二條

登録船免狀ヲ受有スル船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一号書式ノ願書ヲ直チニ最寄船舶司檢所ニ差出シ検査ヲ受クヘシ但近海航船以下ノ船舶ニシテ其航路定限内ニ船舶司檢所ノ設置ナキハ船籍地方官廳ヲ經由シ其願書ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第三條

登録船免狀ヲ受有スルニ及ハサル漁船ハ其船主若クハ船長ヨリ第一号書式ノ願書ヲ船籍地方官廳ニ差出シ検査ヲ受クヘシ検査官吏ニ於テ船舶航行ニ適當ト認メタルハ其旨ヲ遞信省若クハ地方官廳ニ報告スヘシ

第四條

遞信省若クハ地方官廳ニ於テハ前項ノ報告ニ據リ第二号書式

ノ検査証書ヲ調製シ之ヲ検査出願人ニ附與ス

但船舶司檢所ニ於テ検査シタル船舶ノ検査証書ハ其船舶司檢所ヲ經テ附與ス

第五條

第四條ノ検査証書ヲ受領セサル以前ニ於テ船舶ヲ航行ノ用ニ供セントスルハ検査官吏ニ検査假証書ヲ請求スルヲ得

前項ノ場合ニ於テ検査官吏ハ第三号書式ノ検査假証書ヲ調製シ検査出願人ニ附與ス

但本証書ヲ受領シタルハ直チニ返納スヘシ

第六條

検査証書ハ検査規則第十條ニ據リ船内ニ於テ衆人ノ最モ見易キ場所ニ揭示シ旅客船ニ於テハ尙ホ其寫ヲ調製シ各客室ニ揭示スヘシ

第七條

航行シ得ヘキ場所ノ定限ニ據リ船舶ヲ分チテ左ノ四種トス

第一 外國航船 内外國ノ諸港ニ通航シ得ヘキモノ

第二 内國航船 内國各地及朝鮮國南界ノ鴨綠江以北露領黑龍江ニ至ル沿岸並ニ薩俄噠島諸港ニ通航シ得ヘキモノ

第三 近海航船 内國沿岸ノ近港間又ハ内地ト離島トノ間ヲ通航シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第四 平水航船 國內水上其他靜穩ノ海上ヲ通航シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第五 第七條ニ掲ケタル近海航船及平水航船ノ航路定限ハ船体、汽機、

汽鐘ノ現状及季節ニ據リ左ノ區域以内ニ於テ検査官吏之ヲ定ム

近海航船航路區域

第八條

第一 安房國野島崎ヨリ伊豆國大島及神子元島ヲ經テ遠江國御前崎ニ至ル線内

第二 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國大王崎ニ至ル線内及大王崎ヨリ紀伊國大島汝岬ヲ經テ日ノ岬ニ至ル線内

但第三區線内ニ連通スルヲ得

第三 紀伊國日ノ岬ヨリ阿波國伊島ニ至ル線内伊豫國佐田崎ヨリ豊後國地藏崎ニ至ル線内及筑前國岩屋崎ヨリ長門國觀音崎ニ至ル線内

但第二區又ハ第四區ノ一區内ニ連通スルヲ得

第四 豊後國地藏崎ヨリ伊豫國佐田崎ニ至ル線内及土佐國伊佐岬ヨリ日向國細島ニ至ル線内

但第三區内ニ連通スルヲ得



第五土佐國室戸崎ヨリ伊佐岬ニ至ル線内  
 第六日向國都井崎ヨリ大隅國種子島屋久島列島ヲ經テ薩摩國野間岬ニ至ル線内  
 第七薩摩國黒瀬戸ヨリ肥前國五島ヲ經テ平戸海峽ニ至ル線内  
 第八出雲國日ノ岬ヨリ隱岐國列島ヲ經テ伯耆國泊ニ至ル線内  
 第九丹後國經ヶ崎ヨリ越前國安島崎ニ至ル線内  
 但海上靜穩ノ季節ニ限リ加賀國金石マテ延長スルヲ得  
 第十能登國祿剛崎ヨリ佐渡ヲ經テ羽後國酒田ニ至ル線内  
 但海上靜穩ノ季節ニ限リ羽後國船川マテ延長スルヲ得  
 第十一陸前國花淵崎ヨリ金花山ヲ經テ陸中國久慈ニ至ル線内  
 但海上靜穩ノ季節ニ限リ陸奥國鮫マテ延長スルヲ得  
 第十二陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ヲ經テ膽振國室蘭ニ至

ル線内及陸奥國權現崎ヨリ小島ヲ經テ渡島國江差ニ至ル線内  
 但海上靜穩ノ季節ニ限リ羽後國土崎若クハ日高國襟裳崎マテ延長シ又ハ第十三區ニ連通スルヲ得  
 第十三後志國辨慶崎ヨリ神威崎ヲ經テ小樽灣ニ至ル線内  
 第十四釧路國釧路ヨリ根室國納沙布岬及野付ヲ經テ知床岬ニ至ル線内及其線内ノ沿岸ヨリ千島國國後島色丹島間  
 第十五琉球本島ヨリ沖繩諸群島間  
 平水航船航路區域  
 第一湖川港内  
 第二相模國觀音崎ヨリ上總國富津ニ至ル線内  
 第三駿河國三保崎ヨリ伊豆國戸田港ニ至ル線内

- 第四 三河國伊賀湖崎ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内
- 第五 紀伊國宮崎ヨリ加太港ニ至ル線内
- 第六 紀伊國若ヶ島海峽及播磨國明石海峽以內ノ沿岸
- 第七 播磨國室津ヨリ小豆島大角崎ヲ經テ讃岐國小田鼻ニ至ル線内及讃岐國三崎ヨリ備後國鞆ニ至ル線内
- 第八 備後國鞆ヨリ伊豫國今治ニ至ル線内及伊豫國三津ヶ濱ヨリ周防國屋代島ヲ經テ上ノ關ニ至ル線内
- 第九 豊前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内及筑前國若松ヨリ長門國六連島ヲ經テ村崎鼻ニ至ル線内
- 第十 筑前國西浦崎ヨリ志賀島大崎ニ至ル線内
- 第十一 筑前國鹿家崎ヨリ肥前國神樂島ヲ經テ呼子港ニ至ル線内

- 第十二 肥前國津崎ヨリ鷹島ヲ經テ值賀崎ニ至ル線内
- 第十三 肥前國向後崎ヨリ番所崎ニ至ル線内
- 第十四 肥前國野母崎ヨリ三重崎ニ至ル線内
- 第十五 肥前國口ノ津ヨリ肥後國天草島大島崎ニ至ル線内
- 第十六 肥後國天草島牛深港及黒瀬戸以內
- 第十七 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内
- 第十八 山雲國地藏崎ヨリ伯耆國日野川ニ至ル線内
- 第十九 丹後國鷺崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内
- 第二十 越後國立石崎ヨリナカ崎ニ至ル線内
- 第二十一 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内
- 第二十二 陸奥國平館ヨリ九股泊ニ至ル線内
- 第二十三 陸前國花淵崎ヨリ宮戸島萱ノ崎ニ至ル線内

○第二章 検査

第廿四 渡島國函館山尾花岬ヨリ葛登支岬ニ至ル線内

第廿五 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内

第廿六 後志國日和山ヨリ神溪岬ニ至ル線内

第廿七 釧路國尻羽崎ヨリ大黒島ヲ經テムセシマ岬ニ至ル線内

近海航船又ハ平水航船ヲ第八條ニ掲ケル航路區域外ニ航行セ

シメントスルハ船主ヨリ最寄船舶司檢所(地方官廳ノ檢査

ヲ受ケヘキ船舶ハ其地方官廳)ヲ經由シテ遞信省ニ願出ツハ

シ

第十條 左ノ場合ニ於テハ檢査證書ヲ受有セズシテ航行シ又ハ檢査證

書ニ記載ノ航路定限及期限ヲ超ヘテ航行スルモ妨ケナシ

第一船舶司檢所々在地外ノ地ニ於テ製造修繕若クハ購入シタ

ル船舶檢査ヲ受クル爲メ特ニ船舶司檢所々在地其他檢査

ヲ受クヘキ場所マテ航行スルハ

第二航路定限内ノ地ニ船舶司檢所ノ設ナキ場合ニ於テ檢査ヲ

受クル爲メ特ニ船舶司檢所々在地其他檢査ヲ受クヘキ場

所ニ航行スルハ

第三船体若クハ汽機、漁鐵其他要部修繕ノ爲メ船舶司檢所若

クハ地方官廳ノ認可ヲ受ケ工場所在地マテ航行スルハ

第四航路定限外ノ地ニ於テ檢査ヲ受ケタル船舶司檢所若クハ

地方官廳ノ認可ヲ受ケ其航路定限内ノ地マテ航行スルト

キ

第五航路定限變更ノ爲メ船舶司檢所若クハ地方官廳ノ認可ヲ

受ケ指定ノ地マテ航行スルハ

第十一條 船内旅客ノ定員ハ檢査官吏ニ於テ本船ノ航路定限客室ノ等

級及積量ニ據リ左ノ割合ヲ以テ定ム

第一 外國航船

- 上等室 面積十二平方尺以上
- 中等室 一人ニ付 容積七十二立方尺以上
- 下等室

但上等室及中等室ハ一人毎ニ一箇以上ノ寢臺ヲ設ク

第二 内國航船

- 上等室 外國航船ノ上等室ニ同シ
  - 中等室 一人ニ付 容積六十二平方尺以上
  - 下等室 一人ニ付 容積五十五立方尺以上
- 但航路ヲ定限シ其最遠里程ヲ航行シ得可キ豫定時間

二十四時間以内ナルルハ近海航路ノ定員ニ據ルヲ得

第三 近海航船

- 上等室 一人ニ付 容積六十二平方尺以上
- 中等室 一人ニ付 容積五十五立方尺以上
- 下等室 一人ニ付 容積四十立方尺以上

但航路定限ノ最遠里程ヲ航行シ得ヘキ豫定時間六時間以内ナルルハ平水航路ノ定員ニ據ルヲ得ル

第四 平水航船

- 上等室 一人ニ付 面積九平方尺以上
- 中等室 一人ニ付 面積六平方尺以上
- 下等室 一人ニ付 面積四、五平方尺以上

但航路定限ノ最遠里程ヲ航行シ得ヘキ豫定時間一時  
間ナルルル又ハ其航路ノ定限ノ最遠里程五海里以內ナ  
ルルハ其航路ノ狀況ニ依リ下等室一人ニ付面積三平  
方尺マテ遞減スルヲ得

第十二條

客室ニ貨物ヲ搭載シタルルハ其積量ニ對スル旅客員數ヲ減  
スヘシ

第十三條

運航中乗組船員ノ常用室ト客室トハ之ヲ兼用シ若クハ混用  
スルヲ許サス

第十四條

特別ノ契約ヲ以テ移住民若クハ人夫等多人數ヲ搭載セント  
スルルハ更ニ檢査ヲ受ケ第十一條ニ據リ算出シタル旅客定  
員以上ノ人員ヲ搭載スルヲ得

第十五條

第十四條ノ檢査ハ船舶司檢所々在地ニ於テハ其船舶司檢所

其他ノ地方ニ於テハ本船所在地ノ地方官廳ニ於テ執行ス  
前項ノ檢査ヲ受ケントスルルハ船主若クハ船長ヨリ第四号  
書式ノ願書ニ檢査證書寫ヲ添ヘ本船所在地ノ船舶司檢所又  
ハ地方官廳ニ差出スヘシ

第十六條

第十五條ノ場合ニ於テ檢査官吏ハ旅客ヲ搭載スヘキ場所及  
準備ノ適否ヲ檢査シ左ノ割合ヲ以テ員數ヲ定メ第五号書式  
ノ別種旅客室檢査證書ヲ附與ス

第一 外國航船

一人ニ付(面積九平方尺以上)

第二 内國航船

航海豫定時間二十四時間以上

一人ニ付(面積七平方尺以上)

航海豫定時間二十四時間未滿

一人ニ付(面積二十五平方尺以上)

第十七條

別種旅客室ト通常旅客室トヲ混用スルヲ許サス

第十八條

別種旅客室検査證書ハ第六條ノ検査證書ト共ニ掲載シ置キ其有効期限經過シタルハ直ニ船長ヨリ該證書發出ノ官廳ヘ返付スヘシ

第十九條

第一回船舶検査ヲ受ケントスルハ船体ヲ入渠若クハ上架スヘシ

但製造後一ケ年ヲ經過セサル船舶ハ其現狀ニ依リ検査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルハ次回検査迄入渠若クハ上架ヲ延期スルヲ得

第二十條

第二回以後ノ定期検査ニ於テハ毎回船体ノ入渠若クハ上架

ヲ爲スヲ要セスト雖凡鉄船鋼船及船底包板ヲ張ラサル木船ニ在テハ少クモ二ケ年毎ニ又船底包板ヲ張りタル木船ニ在テハ少クモ五ケ年毎ニ一回ハ船体ヲ入渠若クハ上架スヘシ乗揚衝突等ノ爲メ又ハ船舶ノ現狀ニ依リ検査官吏ニ於テ船体ノ入渠若クハ上架ヲ必要ト認ムルハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ命スルヲアルヘシ

第二十一條

定期ト臨時トトキ問ハス凡テ船舶ノ検査ヲ受ケントスルハ其船主若クハ船長ニ於テハ本則ニ定ムル外検査官吏ノ指定ニ從ヒ船体、蒸機、蒸罐ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二十二條

定期臨時ニ拘ラス検査ヲ受ク可キ期限外ニ於テ船舶ヲ入渠若クハ上架セントスルハ豫メ第六號書式ノ届書ヲ最

寄船舶司檢所（地方官廳ノ檢査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳）ニ差出スヘシ

第二十三條

檢査官吏臨檢スルキハ船主又ハ船長ヨリ登簿船免狀、檢査證書、乘組職員海技免狀、海員雇入證書、備品明細簿及日誌等檢査ニ必要ナル書類ヲ其檢閱ニ供スヘシ

第二十四條

檢査執行ノ際檢査官吏ニ於テ船舶ノ尺度噸數ニ差違アリト認ムルルハ之ヲ改測シ遞信省及其船籍地方官廳ニ報告スヘシ

第二十五條

檢査官吏ハ何時タリモ航行不適當ト認メタル船舶ノ檢査證書ヲ取上クルコトヲ得

第二十六條

檢査規則第十一條及第十二條ノ場合其他檢査證書ニ記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルキハ船主若クハ船長ヨリ證據書

類ヲ添へ前回檢査ヲ受ケタル船舶司檢所又ハ最寄船舶司檢所ヲ經由シテ遞信省（地方官廳ノ檢査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳）ニ願出テ證書ノ再授若クハ書換ヲ受クヘシ

第二十七條

檢査規則第十四條ノ場合ニ於テハ其船主ヨリ前回檢査ヲ受ケタル船舶司檢所へ届出ツヘシ

第二十八條

船舶若クハ汽機、汽鐘其他要部ニ損所ヲ生シ若クハ修繕變更ヲ爲サントスルルキハ船主若クハ船長ヨリ其事由ヲ記載シ仕様書ヲ添へ直チニ最寄船舶司檢所（地方官廳ノ檢査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳）ニ届出ツヘシ

第二十九條

檢査證書有効期限内ニ於テ航路定限ヲ變更セントスルルキハ船主ヨリ最寄船舶司檢所（地方官廳ノ檢査ヲ受ケタル

第三十條 船舶ハ其地方官廳ニ願出テ更ニ検査ヲ受クヘシ  
検査證書有効期限内ト雖モ船主ノ都合ニ依リ定期検査ヲ  
操上ケ出願スルヲ得

第卅一條 第四條第十六條第廿六條ノ場合ニ於テ検査證書ヲ下付ス  
ル片ハ其船主若クハ船長ヨリ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ  
第卅二條 本則施行以前ニ附與シタル検査證書ハ本則ノ爲メニ其効  
力ヲ妨ケラル、コナシ  
書式(凡テ略之)

遞信省訓令第七號 明治廿六年十二月廿八日  
西洋形船舶検査手續 (略之)

遞信省令第四號 明治二十八年四月二十七日

船燈信号器及救命具取締規則 (略之)

遞信省訓令第一號 明治二十八年四月二十七日

船燈信号器及救命具試験檢定及監査手續 (略之)



第三章

海員

布告第七十五号 明治十四年十二月廿八日  
 西洋形船々長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年六月第八十二号全年六月九十四号全年十二月第百五十三号全年十二月第百五十七号十三年十二月第五十八号十四年二月第十三号全年三月第十八号布告ハ全日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則

此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス

此規則中内國航船ト稱スルハ支那朝鮮間ニ於ケル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及ヒ薩噠噠諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條

船長運轉手機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ遞信大臣ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條

免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長一等運轉手二等運轉手一等機關手二等機關手ノ五ニ分チ各々試験規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條

試驗ノ規程ハ第一号布達ニ據ルヘシ

第四條

高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スルヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手機關手ノ免狀ニ於ケルモ亦同シ  
 乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船々長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形船機關手免狀ニ於ケ

第三章 海員

ル亦同シ  
 第五條 從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ内乙種免狀ニ代用スルヲ得  
 從前授與シタル小形船々長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又從前ノ小形船機關手ノ免狀ハ當分ノ内本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得  
 第六條 免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フハ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ但シ再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ證人ヲ要ス  
 第七條 免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリモ其檢査ヲ受クヘシ  
 第八條 甲種免狀試驗課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長運轉手機關手ハ更ニ試驗ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條

左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數公稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乘組マシムヘシ

第一項

三百噸未滿	外國航船	甲種免狀船長	一名以上
三百噸以上	全	甲種免狀船長	全
一百馬力未滿	全	一等機關手	全
一百馬力以上	全	二等機關手	全

第二項

一百噸以上三百噸未滿	內國航船	乙種免狀船長	一名以上
三百噸以上五百噸未滿	全	全	全
五百噸以上	全	全	全

第三項

二十馬力以上五十馬力未滿	全	〔乙種免狀二等機關手全
五十馬力以上百馬力未滿	全	〔乙種免狀一等機關手若ク 〔甲種免狀二等機關手
一百馬力以上	全	〔甲種免狀一等機關手 同二等機關手
二十噸 <small>(汽船ハ)</small> 以上	全	〔乙種免狀二等運轉手若ク 〔甲種免狀二等運轉手若ク
二十噸未滿	全	〔乙種免狀一等運轉手若ク 〔甲種免狀二等運轉手若ク
二十馬力未滿	全	〔小形船機關手 全
二十馬力未滿	全	〔全

前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止停止ニ係リ受有シ能ハスシテ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セシムル者ハ各二ムヘシ

圓以上二百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條

農商務大臣ハ船長運轉手機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察スル片及ハ左ニ掲グル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルヲアルヘシ

第一 亂醉、粗暴其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戾シ又ハ職務ヲ怠ル者

第二 失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ビ或ハ大傷痕ヲ被ラシメシ者

第三 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條 前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スル片ハ農商務大臣其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條 免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルキハ農商務大臣其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ拒ムモノハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ但第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條 免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサル者ハ上訴スルコトヲ得ヘシ

第十四條 免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ケ年ノ後ニ於テ農商務大臣ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

布告第三十七号 明治十一年十二月九日 西洋形船水先免狀規則 (略之)

布告第九号 明治十二年二月十九日 西洋形船海員雇人雇止規則 (略之)

布達第一号 明治十四年十二月二十八日

船長運轉手機關手試驗規程 (略之)

第四章

海 難

布告第六十六号 明治八年四月廿四日

内國船難破及漂流物取扱規則別冊ノ通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

内國船難破及漂流物取扱規則

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及之ニ属スル諸費用ノ立方ハ都テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管轄ヨリ區戸長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲メニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直ニ浦役人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之モ速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ但救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重タル者ヨリ頼談無之中ハ猥ニ船中ノ物品ヲ積ミ移ス可ラス

第四條 浦役人ハ難船ヲ見付或ハ其報告ヲ得タルキハ速ニ其乗組人及ヒ船体積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡スヘシ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等打鳴シ人數ヲ呼集メ且ツ近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシムヘシ

第五條 少人數ニテ救助シ得可キ片ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル

第六條 程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛ラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシムヘシ

保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最モ安全ニシテ且ツ便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤モ小屋掛ヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲ爲シ隣事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條 難船ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直ニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ積主ニ報告スヘシ

第八條 難船物ヲ保安スル者ハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣スヘシ

第一海面ニ漂流スル物品ハ其二十分ノ一

第二海中ニ沈没スル物品ハ其十分ノ一

第三川面ニ漂流スル物品ハ其十分ノ一

第四川底ニ沈没スル物品ハ其十五分ノ一

第九條 但シ其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ 浦役人ハ救助ノ爲メ藥マリタル人數及ヒ救助ノ爲メニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ是ニ就テ盡力シタル證據顯然

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ沙入り水漏レ等ノ爲メニ腐敗スヘキ恐アルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ入札拂ニ爲ス

得ヘシ但シ本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルルヘク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且ツ其物品ノ目錄及ヒ買人ノ證書并ニ其付直段ノ第三番

マテ取置クヘシ

第十一條

保安物ヲ賣拂ヒタルキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシムヘシ

第一保安料

第二救助ノ節働人足賃及小舟賃

第三保安物ノ爲メニ取設ケタル小屋掛入費及ヒ番人ノ賃錢

第四乗組ノ者怪我人有之節其療養入費

第五同前ノ者溺死スルキ其搜索入費

第六同前ノ者溺死ノ者埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少ナキキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキ者モ之ナキキハ第十五條ニ照準シテ處分スヘシ

第十二條

左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ

出サシメ其一分ハ之ヲ管内民費トナスヘシ

第二難船取扱中浦役人ノ日誌

第二浦方ニ於テ難船ノ爲メ費シタル薪炭燭燭及筆紙墨代

第三浦方ヨリ管應其外等へ發シタル電信郵便及飛脚賃

第四救助人溺死シタル片ハ其搜索入費

第五同前ノ者溺死スル片治療埋葬入費

第十三條

難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必用品代

料又ハ歸郷旅費等ヲ代遣シタル片ハ證書取置き第十九條ノ

第十四條

通リ精算書中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セシムヘシ

大難船ノ節諸費割賦ノ儀船体皆破沈没乗組人ノ死去及積荷大損害

ハ現場ノ救助法ヲ除クノ外各船ノ處置ハ其管轄廳ニ申立テ

其筋出張官員ノ差圖ヲ受クヘシ尤モ小難船ノ處置ハ二名以

上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上台議ノ上之  
ヲ決スルヲ得ヘシ

第十五條

船体積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其

救助ノ爲ニ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立

ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘ

キニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シテ管廳へ差

第十六條

出スヘシ

危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲ニ盡力シ

テ死傷ニ至ル者アル片ハ必ラス管廳へ届出ヘシ其事實ノ輕

第十七條

重ニヨリ相當ノ賞與或ハ手當金ヲ給スヘシ

總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタル片ハ事柄ヲ詳細ニ記

シタル證書ニ通テ作り之ニ連署押印シ其一通ヲ船長へ渡シ

他ノ一通ヲ浦役人ニテ保テ置クヘシ

第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ス他村ヨリ出ツヘシ

第十九條

難船救助ニ属スル諸費用ハ二名ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ルヘシ速ニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管廳ニ差出シ其檢査ヲ受シ但精算取調ノ節ハ成丈々船主又ハ荷主ノ立會ヲ要スヘシ

第二十條

前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速ニ調査ヲ遂ケ不審ノ廉無之片ハ早速下ケ渡スヘシ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其

第二十一條

即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫スヘシ但民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人ヘ下渡スヘシ  
洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦證文ヲ願出ル片ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上チ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日誌アル者ハ之ニ照シ各々符合スル時ハ浦証文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫チ以テ管廳ニ届出ツヘシ但浦証文中左ノ箇條ヲ載スヘシ

第一難破ニ逢ヒタル場所其時日及ヒ風波ノ模様

第二破損ノ箇所

第三打荷ノ種類箇數並ニ他ノ積荷ノ種類

第四船号及免狀ノ番號並ニ船主船長ノ本貫苗字名乗組人數



第五荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六仕出シ地及仕向ケ地ノ港名

第七乗組ノ内死傷有之時ハ其本貫苗字名年齢

第廿二條

軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助スヘシ且其難破ノ大小ニ拘ラス其旨ヲ直ニ管廳ニ報スヘシ

第廿三條

前條ノ救助ニ属スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直ニ受取ルヘシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受クヘシ但第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フヘシ

第廿四條

貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及候節現場救助ヲ除クノ外凡テノ處置ハ管廳ヘ申立ノ上其指揮ヲ受クヘシ但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱處へ郵便行囊ヲ

第廿五條

至急引渡スヘシ  
難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五拾錢ヨリ多カラス拾錢ヨリ少ナカラサルモノトス  
難破ノ節個人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫メ其額ヲ定メ置クヘシ

第廿六條

船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スルハ其損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄人知ノ前知ス可ラス人カノ豫防ス可ラサルニ出ルヲチ瞭然明証スルハ此限リニ非ス

第廿七條

浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ筋カニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分スヘシ

第廿八條

凡テ難船ノ節救助ニ托シテ積荷船具其他ノ物品ヲ窃盜或ハ掠奪スル者又ハ其窃盜掠奪ニ與スル者其本犯ヲ陰匿スル者又ハ窃盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分スヘシ以下部凡ソ原因ノ知レサル難破漂着物及乗組人ナキ漂着船ヲ見付ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知スヘシ浦役人ハ其調書ヲ作リ之ヲ其管廳ヘ届出ツヘシ

第廿九條

乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ詳細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記シ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及船政所ヘ六十日間張出スヘシ尤モ漂着物ノ代價貳拾圓以上ト思料シ或ハ貳拾圓以下タリハ必要ノ品柄ト量スル時ハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ稅關ヘ報告シテ張出ヲナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告スヘシ

第三十條

乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ詳細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記シ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及船政所ヘ六十日間張出スヘシ尤モ漂着物ノ代價貳拾圓以上ト思料シ或ハ貳拾圓以下タリハ必要ノ品柄ト量スル時ハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ稅關ヘ報告シテ張出ヲナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告スヘシ

第卅一條

漂着物ノ持主知レタル片ハ左ノ區別ニ循ヒ處置スヘシ

第一一ヶ年以内ハ其見積代價ノ三分之一ヲ取揚主ヘ其現品ハ持主ヘ返還スヘシ但持主ノ情願ニ依リ現品賣拂ヒ其代價ニテ受取ルヲ得ヘシ

第二一ヶ年ヲ過レハ之ヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與ヘ一半ハ官ニ收ムルヲ但三ヶ年以内ニ其持主知レタル片ハ官ニ收メタル部分ハ下戻スヘシ

第卅二條

乗組人無之漂船ノ持主知レタル片ハ左ノ區別ニ循ヒ處置スヘシ

第一一ヶ年以内ハ其見積代價ノ十分ノ一ヲ見付主ニ與ヘ其船ハ持主ヘ返還スヘシ但(前條第一項ニ全シ)

第二一ヶ年ヲ過レハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分ノ一ヲ見付主

第卅三條 前二條ニ記載スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條牴觸スル  
トナカルヘシ  
ヘ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ収ムルヲ但(前條第二項ニ全)

第卅四條 凡ソ漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スルノ事ニ付費用アルモ  
ノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ與印シタル證書ヲ以テ代價ノ  
全部中ヨリ之ヲ償却スヘシ

第卅五條 洋中ニ難破イタシ桅樁其他ノ船具ニ取付キ海岸ニ漂着イタ  
シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ醫  
キ直チニ管廳ヘ届出其指揮ヲ受クヘシ尤モ本人歸郷ノ旅費  
其他ノ手當等貸遣シ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人ヨリ償  
却セシムヘシ

第卅六條 凡ソ漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルヲナク其

物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照  
シテ處分スヘシ

第卅七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚ルルハ此規則第二十九條以  
下ニ照準シ其代價拾分ノ一ニ過サル取揚料ヲ遣スヘシ

第卅八條 前條ノ場合ニ於テ取揚ケタル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナ  
ルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト見做シ財主ノ有  
無ニ從ヒ處分スヘシ

○逓信省令第五号 明治廿六年三月三日

海難取調手續

第一條 本令ハ船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者ノ乗組タル船舶  
ノ海難ニ罹リタル場合ニ適用ス

第二條

船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ海難ニ罹リタルルキハ書面又ハ口頭ヲ以テ遭難地又ハ遭難后始メテ着港シタル地ノ船舶司檢所又ハ警察署(船舶司檢所設置ナキ地)ニ直ニ其事由ヲ届出ヘシ

第三條

何人タリト雖モ船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ海難ニ罹リタルコトヲ知リタルルキハ書面又ハ口頭ヲ以テ其地ノ船舶司檢所又ハ警察署ニ届出ヘシ

第四條

船舶司檢所又ハ警察署第二條及ヒ第三條ノ届出ニ依リ又ハ自ラ其事實ヲ知リタルルキハ船長運轉手機關手ハ勿論場合ニ依リテハ關係人ヲモ召喚シ左ノ事項ヲ取調ヘ取調書ヲ作ルヘシ警察署ノ取調ニ係ルルキハ其取調書ヲ最近ノ船舶司檢所ニ遲滞ナク送致スヘシ取調書ニハ取調ヲ爲シタル者ノ官氏名及ヒ年月

日ヲ記入スルヲ要ス

一 取調ヲ受ケタル者ノ住所氏名職業年齢

二 遭難船ノ名稱種類積量馬力(噸船ナ) 船主ノ住所氏名及積荷ノ有無

三 發航地到達地及ヒ遭難地ノ名稱年月日

四 發航以後遭難マテノ天候航路及ヒ遭難ノ顛末

五 船舶破損ノ箇所及ヒ其再用適否

六 乗組員及船客ノ員數死傷ノ有無

七 船長運轉手機關手ノ住所氏名免狀ノ種類番号

八 人命及船舶救護ノ方法

九 發航以後船長運轉手機關手船取及ヒ看守ノ當直時間並ニ其氏名

十 本船平均速力及ヒ遭難當時ノ速力

十一 使用海圖ノ種類及ヒ番號

十二 航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及ヒ其航路ニ於ケル羅針盤ノ自差(自差トハ通常羅針ノ指示スル地位カ船内鉄氣ニ感シ左若クハ右ヘ其位置ヲ移轉シ爲メニ生ジタル差違ヲ云フ)

十三 航海日誌ノ存否

十四 取調ヲ受ケタル者其地ニ滞在シ又ハ何日以後ハ何地ニ至ルヘキ

第五條

前條ノ場合ニ於テ船舶司檢所又ハ警察署ハ船名遭難地名時日及ヒ遭難模様ノ大略ヲ記シ遲滞ナシ遞信省ニ報告スヘシ

第六條

船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者ニシテ第二條ノ規定ニ違背シ海難ノ届出ヲ爲サル者ハ貳圓以上廿五圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章

航海

法律第五号

明治廿五年六月廿二日

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海上衝突豫防法

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖モ帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用キサルハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルハ帆ヲ用ウルト用キサルトノ別ナシ汽船ト看做スヘシ

本法中漁船トハ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ云フ  
本法中船舶航行中トハ碇泊若クハ緊留又ハ坐礁膠沙ニ非サル場  
合ヲ云フ

船燈

第一條

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ  
船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セヌ日没ヨリ日出マテ必  
ス遵守スヘシ此時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易  
キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條

漁船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ  
一前橋若クハ其前面ニ於テ又ハ前橋ヲ具ヘサルルハ本船ノ前方  
ニ於テ船体上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユ  
ルルハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲クヘ

シ然レ共船体上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此燈ハ常ニ  
フ同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ二十点間ヲ照スヘク製造シ其射光  
ヲ左右舷外ヘ十点ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二点マ  
テ及フヘキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノ  
ヲ用ウヘシ  
二右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤  
ノ十点間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横  
後ノ二点マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見  
得ヘキモノヲ用ウヘシ  
三左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ  
十点間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後  
ノ二点マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得

ヘキモノヲ用ウヘシ

四本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シ

タル隔板ヲ其燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨ

リ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ

五、汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈

一箇ヲ掲スルヲ得但此場合ニ於テハ其兩燈ヲ龍骨線上前後

ニ隔テ其前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ

距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

### 第三條

汽船他船ヲ引キテ航行スルキハ兩舷燈ヲ掲グルノ外ニ白燈二

箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此白燈ハ第二條第一

項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然

レ共二艘以上ヲ引キテ航行スルキハ其引タル船ノ船尾ト最後

ニ引ル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇  
ノ白燈ヨリ上方若クハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増  
掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若クハ後檣

ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲ルヲ得但此ノ白燈ハ本船正横ヨ

リ見得サル様ニ爲スヲ要ス

### 第四條

事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一

項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ

汽船ナレハ其白燈ノ代リニ二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺

ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見

得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直

徑二尺ノ黒球若クハ黒色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔

テ連掲スヘシ  
 海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ  
 第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ（漁船ナレハ其  
 ノ白燈ノ代リニ）三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、チ隔テ連  
 掲スヘシ但此燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色  
 ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス  
 又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直径二尺以上ノ形象三箇  
 ナ上下ニ少クモ六尺ツ、チ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色  
 球形ヲ用キ中央ノ一箇ハ白色豎菱形ヲ用ウヘシ  
 本條ノ船舶全ク運行セサル片ハ舷燈ヲ掲ク可ラス然レ共運行  
 スル片ハ必ス之ヲ掲クヘシ  
 本條ノ信号ハ難船信号ト混同ス可ラス難船信号ハ第三十一條

ニ於テ之ヲ規定ス

第五條

航行中帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第  
 三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘ  
 カラス

第六條

小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キ片  
 ハ何時ニテモ使用シ得ヘキ様点火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ  
 他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク片ハ  
 衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最  
 モ見得易キ様各舷ニ表示スヘシ但此時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ  
 右舷ヨリ見得ス且成ルヘク各舷正横后ノ二点ヨリ後方ヘ見得  
 サル様ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ハ綠色紅



第七條

燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且ツ適當ノ隔板ヲ備ヘ置クヘシ  
 總積量四十噸未満ノ汽船及櫓樞若クハ帆ヲ以テ運轉スル二十  
 噸未満ノ船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規  
 定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レ共若クハ掲ケサルキハ必左  
 ノ規定ニ依ルヘシ  
 一 四十噸未満ノ汽船

甲 船ノ前部又ハ烟突若クハ其前面ニ於テ舷縁上九尺ヨリ低  
 カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造  
 裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲  
 クヘシ

乙 第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ一海里ノ  
 距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷

正横后ノ二点マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク  
 製造シタル兩色燈一箇ヲ掲クヘシ但此ノ燈ハ白燈ヨリ少ク  
 モ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷縁上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ  
 得然レモ其白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 櫓樞若クハ帆ヲ以テ運行スル二十噸未満ノ船ハ一面ハ綠一面  
 ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船  
 ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クハ衝突ヲ防ク  
 ニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但此ノ時綠光ハ左  
 舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條ノ末項ノ燈ヲ掲ルニ及  
 ハス

第八條

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲スルハ他船ニ要スル燈ヲ掲  
 グ可テス單ニ周圍ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ橋頭ニ掲ケ且十五  
 分時ヲ超ヘサル間隙ヲ以テ閃火一箇又ハ數箇ヲ發スヘシ水先  
 船ニハ右ノ外縁江ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ  
 來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク片ハ我船ノ進行スル方向  
 ナ示ス爲メ一時之ヲ表示スヘシ但此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光  
 ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲ヌ要ス  
 水先人ヲ要スル船船ヘ直付スヘキ水先船ハ白燈ヲ橋頭ニ掲ケ  
 ル代リニ隨時之ヲ表示シ又舷燈ヲ兩舷ニ掲ケル代リニ一面ハ  
 綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近ニ備置キ前  
 項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得  
 水先船其水先區ニ於テ營業ヲ爲サル片ハ其ノ積量ニ應シテ

第九條

他船ト同一ナル燈ヲ掲クヘシ  
 凡漁船其業ニ從事スル片ハ本條各項ノ規定ニ依ルヘシ但航行  
 中ノモノ又ハ本條ニ規定ナキモノハ其積量ニ應シテ他船ト同  
 一ノ燈ヲ掲クヘシ  
 一刺網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船ハ最モ見得易キ所ニ於テ二  
 箇ノ白燈ヲ龍骨線上前後ニ五尺乃至十尺ヲ隔テ其前燈ヲ後燈  
 ヨリモ六尺乃至十尺下方ニ掲クヘシ此ノ燈ハ周圍少クモ三海  
 里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス  
 二線網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船ハ左ノ規定ニ依ルヘシ  
 甲漁船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠  
 一箇ヲ掲ケ尙其下方六尺乃至十二尺ノ所ニ白燈一箇ヲ増掲  
 スヘシ此三色ノ燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其

レヨリ正横后ノ二点マテハ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光チ  
及ホシ増掲ノ白燈ハ常ニ不同ナキ光明ノ光チ發シテ周回チ  
照スヘキモノタルヲ要ス

乙 總積量七噸以上ノ帆船ハ常ニ不同ナシ光明ノ光チ發シテ周  
回チ照スヘキ白燈一箇ヲ掲クル外尙少クモ三十秒時間發火  
スヘキ紅光煙管ヲ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我  
船ノ他船ニ近寄り行クハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見  
定メ之ヲ發スヘシ

本項乙ニ記載スル諸船地中海ニアリテハ紅光煙管ノ代リニ  
他ノ閃火ヲ用ウルヲ得

本項甲乙ニ記載スル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘ  
キモノタルヲ要ス

丙 總積量七噸未満ノ帆船ハ必スシモ本條第二項乙ニ記載スル

白燈ヲ掲クルヲ要セス然レモ之ヲ掲ケサル場合ニ於テハ白

色光明ノ光チ發スル燈籠一箇ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ

近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クハ衝突ヲ防ク

ニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ燈ヲ最モ見得易キ所ニ表示

シ且本條第二項乙ニ規定シタル紅光煙管ヲ發シ或ハ其煙管

ノ代リニ他ノ閃火ヲ發スヘシ

三 細釣漁業ニ従事スル船碇泊若クハ停留セサルハ刺網ヲ用キ

タル漁船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

四 漁船ハ本條ニ規定シタル燈火ヲ表示スルノ外何時ニナモ閃火

ヲ發スルヲ得但シ縲網其他ノ桁網ノ類ヲ以テ漁業ニ従事スル

船ノ閃火ハ船尾ニ於テ之ヲ發スヘシ然レモ漁具ヲ船ニ繫キタ

ル場合ニ於テハ船首ニ於テ發スルヲ得

五 漁船碇泊スルキハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ表示スヘシ

六 漁船其ノ漁具ノ岩礁其他ノ障礙物ニ纏着シタル爲メ其ノ所ニ停留スルキハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ且碇泊船ノ霧中信号ヲ爲スヘシ

七 霧中降雪其他暴雨中刺網、線網、桁網ノ類其ノ他細釣ノ業ニ從事スル漁船ノ總積量廿噸以上ナルキハ漁船ナレハ漁笛又ハ漁角帆船ナレハ霧中号角ヲ用キ一分ヨリ多カササル時間毎ニ一聲ヲ發シ之ニ續キテ号鐘ヲ鳴スヘシ

八 刺網、線網又ハ細釣漁業ニ從事スル帆船運航中晝間ニアリテハ最見得易キ所ニ籃又ハ其他ノ信號ヲ掲ケ近寄ル他船ニ其漁船

ナルヲ表示スヘシ

本條諸項ノ漁船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲グルニ及ハス

參 考 漁具說明

遞信省告示第百八十五號 明治廿五年八月十八日

明治二十五年六月法律第五號海上衝突豫防法第九條ニ掲載

スル刺網、及細釣漁業トハ左ニ記載スルモノヲ謂フ

刺網トハ縵刺網、鮪流網、鯉流網其他流シテ用ウル刺網

線網トハ打セ網、帆曳網、其他漁船ノ進行ニ從ヒ海底ヲ曳

ク線網

細釣漁業トハ曳繩又ハ延繩ヲ使用スル漁業但シ延繩ハ延

入レ若クハ線上クルキニ限ル

第十條

他船ニ追越レントスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レ共此燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナル亮明ノ光ヲ發シ鏡盤ノ十二点間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六点間宛射光ノ及フヘキ様隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

第十一條

長サ百五十尺未満ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船舶上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ

第十二條

船舶上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ケ且船尾若クハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリモ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ

各船他船ノ注意ヲ起喚スル爲必要アリトスル片ハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信号ヲ混同セサル爆裂信号ヲ發スルヲ得

第十三條

本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船舶ニ増掲スル列位燈及信号燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ス又船舶所有主ニ於テ其國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信号ノ使用ヲ妨ケス

第十四條

汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其烟突ヲ引下ケサル片

ハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直径二尺ノ黒球若クハ黒色形象一箇ヲ掲クヘシ

霧中信號

第十五條

航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中号角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ汽船ハ汽力

其他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽

角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且号角及機關ノ作用ニヨ

リ發聲スル適當ノ霧中号角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上

ノ帆船ハ汽船同様ノ号角及霧中号角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサル片ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間

隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ正横後ニ風ヲ

受ケタル片ハ三聲ヲ連發スヘシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク号鐘ヲ鳴スヘシ

五船舶普通ノ碇泊場外又ハ航行中ノ船舶ニ障礙ヲ及ホス虞  
 アル場所ニ碇泊シタル片ハ汽船ナレハ汽笛若ハ汽角ヲ用  
 キ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發シ直ニ号  
 鐘ヲ鳴スヘシ又帆船ナレハ霧中角号ヲ用キ一分時ヨリ多  
 カラサル間隙ヲ以テ二聲ヲ發シ直ニ号鐘ヲ鳴スヘシ  
 六他船ヲ引キテ運航スル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定  
 シタル信号ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三  
 聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘ  
 シ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信号ヲ爲スハ妨  
 ナシト雖他ノ信号ヲ爲スヘカラス  
 七航路ニ餘地アリテ他船ノ航過スルニ障礙ナキトテ他船ニ  
 通知セントスル汽船ハ短長短ノ三聲ヲ連發スルヲ得但シ

其ノ三聲ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス  
 八海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶近寄り來ル他  
 船ノ霧中信号ヲ聞タル片ハ三長聲ヲ連發シテ之ニ應スヘ  
 シ  
 九船舶航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ  
 避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサル片ニ際シ  
 近寄り來ル他船ノ霧中信号ヲ聞キタル片ハ四短聲ヲ連發  
 シテ之ニ應スヘシ  
 總積量二十噸未満ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信  
 号ヲ爲スヲ要セス然レモ其ノ信号ヲ爲サル片ハ一分時ヨ  
 リ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信号ヲ爲スヘシ  
 霧中速力

第十六條

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ  
漁船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信号ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サル片ハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ進航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危険ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其方位儘ニ變更スルヲ認めサル片ハ危険アルモノト知ルヘシ

第十七條

二艘ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞アル片ハ其一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ  
一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

三一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷同シカラサル片ハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

四一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷同シキ片ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條

二艘ノ漁船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アル片ハ兩船正シク眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アル片ニ限り適用スヘシ兩舷各其ノ航路ヲ保チテ互ニ替リ



行ク片ニハ適用ス可ラス

本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共正シク眞向又ハ幾ント眞向

ニ行途ヒタル片即チ畫間ニアリテハ我船ノ櫓ト他船ノ櫓ト

一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユル片夜間ニアリテハ互ニ他

船ノ兩舷燈ヲ見ル片ニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我船ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル片

又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船

ノ綠燈ニ對スル片又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ

見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ル片又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船

ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ル片ハ適用ス可ラス

二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アル片ハ他船ヲ右舷

ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十九條

第二十條

帆船ト汽船ト互ニ近寄り衝突ノ虞アル片ハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條

本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クル片ハ他船ニ於テ其ノ航路及速力ヲ保ツヘシ

第二十二條

本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横ルヘカラス

第二十三條

本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタル片時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若クハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條

總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラズ他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正横後ノ二点以外即チ夜間ニアリテハ舷燈

第廿五條 漁船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第廿六條 航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用キテ漁業ニ従事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖モ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨ク可カラス

第廿七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スニ注意スヘシ

第廿八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ

航行中ノ漁船他船ニ近寄り航路ヲ變セントスルキハ漁笛若ハ漁角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ航路ヲ通知スヘシ

短聲一發 我船航路ヲ右ニ取ル

短聲二發 我船航路ヲ左ニ取ル

短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

○第五章 航海

九十三

懈怠ノ責

第廿九條 本法ハ点燈、信號又ハ見張ノ怠リ其他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長、海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條 本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第卅一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ  
一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス  
二 畫間信號

二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス

三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲クル遠隔信號ヲ表示ス

四 夜間信號ノ部ニ規定シタル榴彈或ハ火箭ヲ打揚ク

五 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス

二 船上ノ發烟(ターナル桶、油燈等)

三 空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、度々打揚ク

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附則

第卅二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第卅三條 本法ハ明治廿六年一月一日ヨリ施行ス

第卅四條 明治十三年(七月)第三十五號布告海上衝突豫防規則全十四年(五月)第三十三號布告同規則追加全十八年(八月)第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令第六十七號 明治二十一年十月十日

朕航路標識條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

航路標識條例

第一條 航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條

土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ地方稅又ハ市町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルヲ得遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルヲ得

政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二項ノ航路標識ヲ買上ルヲ得

第三條

航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤謬シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下

ノ罰金ニ處ス

第四條 航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

海員必携畢

明治二十八年六月三日印刷  
明治二十八年六月七日發行

價金拾錢

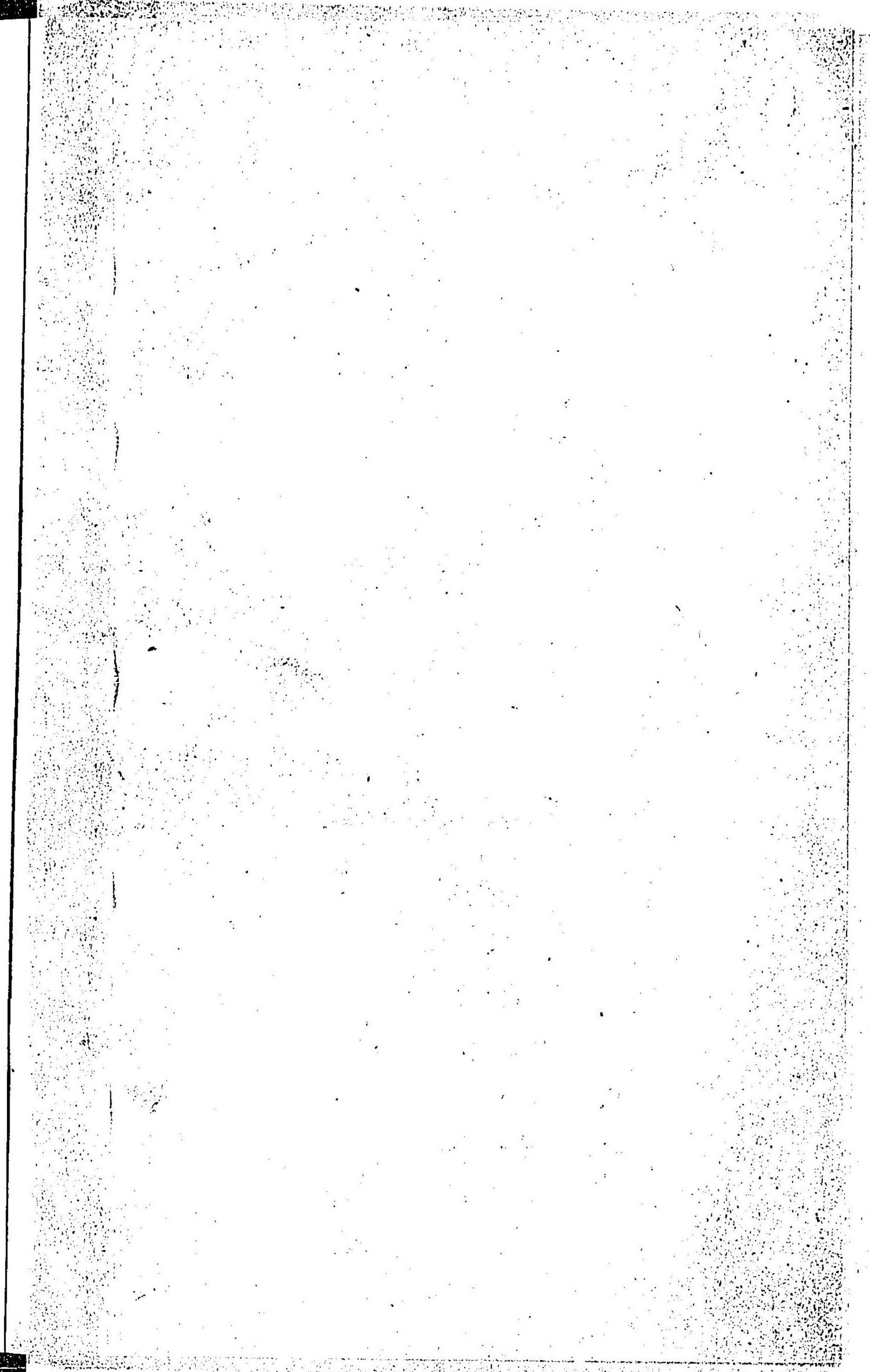
福岡縣豐前國門司港本町二十四番地  
著作兼發行者 中村爲弘

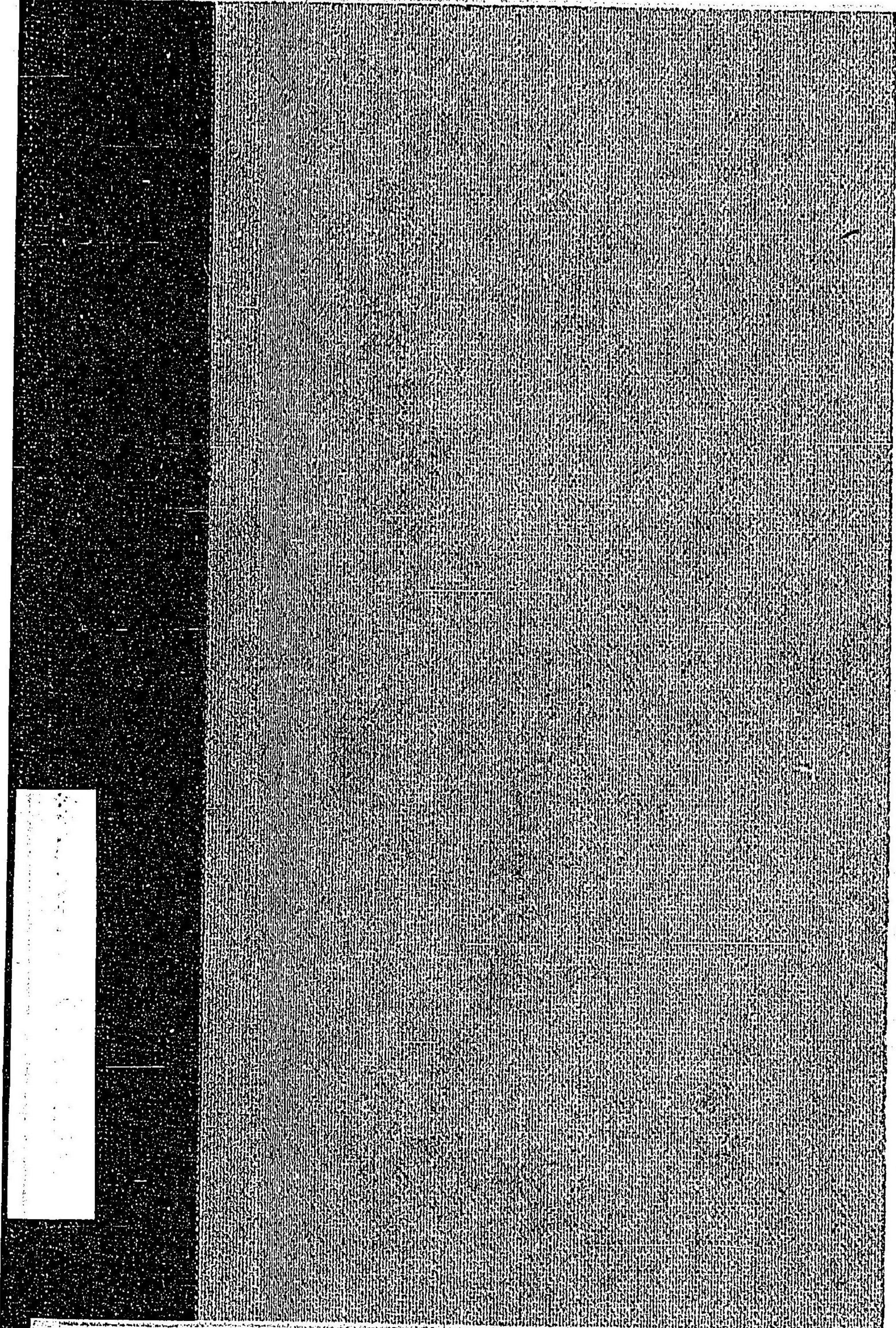
大阪市東區和泉町二丁目八番屋敷  
前野活版所

印刷者 前野茂久次

賣捌所 濱本明昇堂  
同 豐前國門司港本町二十四番地  
中村近古堂







Vertical text or markings on a small white rectangular area, possibly a label or a page number, located on the left side of the dark area.

Horizontal text or markings on a small white rectangular area, possibly a label or a page number, located at the bottom of the dark area.



特 25

104

海員必携

国立国会図書館

066988-000-7

特25-104

海員必携

中村 為弘/著

M28.6

CDG-0049

